

NOTEBOOK

令和7年度 1学年

シラバス

Harayamadai Junior high school

原中生の成長が
この **仲間** の中にある!!



堺市立 原山台中学校

〒590-0132

堺市南区原山台4丁2番1号

TEL 072-299-5135 FAX 072-299-5141

<http://harayamadai-j@sakai.ed.jp>

シラバスについて

■シラバスとは

ギリシャ語に語源を持つ言葉で、現代では「**各教科の授業内容や学習方法、評価方法などを記した総合的な学習計画**」のことをシラバスと呼んでいます。

原山台中学校の「シラバス」は、本校のめざす生徒像としている、「愛・学・健」の精神を土台に、基礎学力の学習習慣の定着をめざし、1年間の授業の流れを見通して、これから何を・何のために・いつ・どう学ぶかを知らせる、簡単な学習計画として作成しています。



■シラバスの3つの意義

1. 生徒の皆さんが、より計画的・主体的に授業に取り組めるよう、**1年間の学習の「道しるべ」**とする。
2. 生徒の皆さんはもちろん、保護者や地域の皆さんへ、本校の学習内容についてお知らせする。
3. お知らせした学習内容をもとに、よりよい教育の実現をめざして、われわれ教員にとっても**授業改善の契機**とする。

※随時改定がありますので、授業が本シラバス通りに行われない場合もあります。規定されていない部分は、授業等で説明させていただきます。



評価について

～人と比べる評価から、自分の学びを見つめる目標に準拠した「絶対評価」に！～

■「観点別学習状況評価」から「評定」への総括



- ・授業における評価資料をもとに、各教科における3観点ごとに学習状況をABCの3段階で評価します。
- ・観点ごとの学習状況をもとに総括し、評定を54321の5段階で評価します。
- ・また、公立高校の入試で用いる調査書には、**すべての学年**の評定を記入します。

※各学年の調査書評定には比率を設けて合計することとなっております。⇒ **1年生:2年生:3年生＝1:1:3**

※なお、各学年の評定の確定には、各学年のチャレンジテスト結果による関係性があることを申し添えます。

授業力を高める工夫について

～生徒たちの「主体性」が育つ授業へ～

■指導のねらいを明確にし、1時間の授業で身につけ(る)させたい学びを明確にする。

	生 徒	先 生
	授業挨拶(休み時間との切り替え)、教室環境・机の整頓、机の上の授業準備	
めあて	指導のねらいを明確にし、学習への意欲を高める	学ばせたい・身につけさせたいことを明確にする
展 開	自分で考え、自ら表現する	思考を助ける具体物や資料等の工夫
	集団で考え、表現する	発表させ、相互に聞かせることで考えを深めさせる
ふりかえる	学んだこと、わかったことを確かめる	めあてに対応したまとめを板書したり、書かせたり、ふりかえりの手掛かりを示す。
生徒のノート記述等を授業導入で取り上げたりし、授業と家庭学習とを関連づける。		

【令和7年度 重点目標】



新しい時代にむかってじりつ(自律・自立)できる子どもの育成

～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

①新しい時代を生き抜く子どもに必要な探究的な学びの推進

(1) 「学びのコンパス」、「堺 STEAM ブック」を踏まえた

総合的な学習と各教科の授業の関連の工夫

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



②探究的な学びに繋がる ICT 活用の推進

(1) 一人一台端末を活用した主体的な学びの推進

(2) ICT 機器を用いた個別最適な学習を推進

(3) 生徒の情報活用能力の育成



③「指導と評価の一体化」による授業改善

(1) 「学習記録、評価規準の可視化」による学習意欲の向上

(2) 「知識・技能」、「思考・判断・表現」を基に、

「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究と授業実践

令和7年度 シラバス

第(1)学年(国語)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週4時間 年間140時間

新しい時代におかたてじりつ(自律・自立)できる子どもの育成 ～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともにわが国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

(2) 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像する養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。

(3) 言葉が持つ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2. 使用教材と持ち物一覧

① 教科書 ②ノート・のり ③ 書写の教科書 ④ 国語ワーク ⑤漢字ワーク ⑥文法ワーク ⑦ 習字セット ⑧色鉛筆など	毎回の持ち物 ① ② 学校に置いておいても良いもの ③ 家庭学習で使うもの ④ ⑤ ⑥ 必要に応じて持ってくるもの ⑦ ⑧
--	--

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
・授業の根幹は先生の話です。だからこそしっかりと話を聞くことが大切になってきます。先生が話していた内容で、大切だと思ったこともノートに書き留めていきましょう。 ・班で学ぶときには、しっかりと班の人の話を聞き、自分の考えの質を高めていきましょう。疑問を共有することが大切です。 ・課題としっかりと向き合い、思考力のトレーニングをおこなっていきましょう。人は考えているときにどんどん力がついていきます。	・家庭ではワークやプリントを使って学習をしてもらいます。提出日や提出範囲を指示することもあります。授業に沿って自分で学習を進めていきましょう。特に漢字については、普段から習ったものを使う習慣をつけてください。 ・授業中に終わらなかった課題は、宿題になります。家で調べて、考えて取り組んでいきましょう。	・まずは授業をまとめたノートをしっかりと見直しましょう。特に、先生が重点的に説明していたことを思い出し、授業でどのような力を身につけたのかよく思い出しましょう。 ・提出物に関しては、期限に間に合うように計画的に取り組みしましょう。答え合わせを自分で行い、自分で学習を進めることで、確かな力がついていくはずですよ。

4. 年間計画

1学期		2学期		3学期	
4月	朝のリレー 野原はうたう 声を届ける 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう	9月	読書を楽しむ 毛筆 大人になれなかった弟たちに…… 星の花が降るころに 聞き上手になろう 案内文を書く	1月	少年の日の思い出 単語の分類 随筆二編
5月	はじまりの風 情報を的確に聞き取る 情報を整理して書く 漢字の組み立てと部首	10月	方言と共通語 漢字の音訓 「言葉」もつ鳥 シジウカラ 根拠を明確にして書く 話題や展開を捉えて話し合おう	2月	構成や描写を工夫して書く さまざまな表現技法 漢字の成り立ち
6月	ダイコンは大きな根? ちょっと立ち止まって 話の構成を工夫しよう 言葉の単位 情報社会を生きる	11月	大阿蘇 いろは歌 古典の世界 蓬萊の玉の枝 今に生きている言葉	3月	一年間の学びを振り返ろう ほかへ ここに
7月	空の詩三編 比喩で広がる言葉の世界 指示する語句接続する語句 言葉を集めよう 硬筆	12月	「不便」の価値を見つめ直す 助言を自分の文章に生かそう 文の組み立て 研究の現場にようこそ 毛筆		

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	言葉の特徴 使い方(漢字・語句・文法) 情報の扱い方(情報の整理や活用) 伝統的な言語文化(古文や韻文の知識) (書写)	ペーパーテスト 小テスト レポート ワークシート テスト 作品
思考・判断・表現	話すこと 聞くこと 書くこと 読むこと	聞き取りテスト スピーチ 話し合い 作文課題 ワークシート ワークシート テスト
主体的に学習に取り組む態度	粘り強い取り組み 自己調整力	提出物 授業への主体性 ノートの記述 ワークシートの記述 ふりかえりプリント

令和7年度 シラバス

第(1)学年(社会)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週 3 時間 年間 105 時間

新しい時代におかたてじりつ(自律・自立)できる子どもの育成 ～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2. 使用教材と持ち物一覧

① 教科書(地理、歴史) ② ノート ③ ワーク ④ 地図帳	毎回の持ち物 ① ② ④(地理の学習時) 学校に置いておいてもよいもの ④ 家庭学習で使うもの ① ② ③
---	---

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
・学習目標を明確にし、今までの学習を踏まえ、毎回の授業を主体的に取り組みしましょう。 ・「なぜ」という疑問を大事にしましょう。授業内で課題を考えるときは、教科書や今までの学習を踏まえて自分で考え、自分の意見を持ちましょう。 ・考えたことは発表し聞くことで考えを深め広げる。最後には、わかったことを確かめ、学んだことが活用できるよさを実感します。 ☆わからなければ、となりの人や先生に聴く。わからないまま置いておかない。	・毎回の授業の振り返りを行う。 ・家庭ではワークを使って学習をしてもらいます。提出日や提出範囲を指示することもあります。授業に沿って自分で学習を進めていきましょう。 ・家庭学習で出た疑問は置いておかずに学校に来たときに解決するようにしましょう。	・まずは授業ノートをしっかりと見直しましょう。特に、先生が重点的に説明していたことを思い出し、授業でどのような力を身につけたのかよく思い出しましょう。 ・教科書やワークにある資料をよく見て、その資料から分かることは何か、などの読み取る力を伸ばしましょう。 ・提出物に関しては、期限に間に合うように計画的に取り組みしましょう。答え合わせを自分で行い、自分で学習を進めることで、確かな力がついていくはずですよ。

4. 年間計画

1 学期		2 学期		3 学期	
4 月	【地理】世界と日本の地域構成	9 月	【歴史】古代までの日本	1 月	【地理】世界の諸地域 南アメリカ州・オセアニア州
5 月	【地理】世界各地の人々の生活と環境	10 月	【地理】世界の諸地域 アジア州	2 月	【歴史】中世の日本
6 月	【歴史】古代までの日本	11 月	【地理】世界の諸地域 ヨーロッパ州・アフリカ州	3 月	【歴史】中世の日本
7 月	【歴史】古代までの日本	12 月	【地理】世界の諸地域 北アメリカ州		

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	定期テスト・小テスト・ワークの取り組み・授業ノート
思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	定期テスト・小テスト・ワークの取り組み・授業ノート
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	定期テスト・小テスト・ワークの取り組み・授業ノート・授業態度の見取り

令和7年度 シラバス

第(1)学年(数学)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週4時間 年間135時間

新しい時代におかかってじりつ(自律・自立)できる子どもの育成
～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

- (1) 数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深める。
- (2) 数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高める。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする事、ならびに粘り強く取り組む態度を育てる。

2. 使用教材と持ち物一覧

①ファイル ②ワーク(数学の学習ノート) ③教科書 ④タブレット	持ち物・・・①②④(必要に応じて③, ④)
---	-----------------------

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
① 粘り強く課題に取り組む。 ② 主体的に課題に取り組み、他の解法についても考える。 ③ 自分の考えを発言したり、周りの意見に耳を傾けたりする。	① 基本的な用語の意味や法則など教科書を読み直す。 ② 問題集を復習に利用するなど計画的に使用する。 ③ まちがった問題をやり直したり、同じ問題を何度も繰り返したりする。	① テスト範囲の教科書、授業用プリント、ワークの復習。提出物は期限内にする。 ② 問題は答えだけでなく、考え方や解き方を理解すること。

4. 年間計画

1学期		2学期		3学期	
4月	整数の見方 正の数・負の数 ↓ 文字式 ↓	9月	1次方程式 ↓ 比例・反比例 ↓ 平面図形 ↓	1月	空間図形 ↓ データの活用 ↓
5月		10月		2月	
6月		11月		3月	
7月		12月			

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	・用語、記号について正しく理解、表現しているか。 ・基礎的な概念、原理、法則を理解できているか。 ・様々な問題を的確に処理することができるか。	各種テスト ワーク、プリントなど
思考・判断・表現	・1つ1つの問題を様々な見方で考え、それを表現することができるか。	各種テスト ワーク、プリントなど
主体的に学習に取り組む態度	・見通しをもって、計画的に学習に取り組んでいるか。 ・粘り強く授業や課題に取り組もうとしているか。	ワーク、プリントなど 授業中の見取り 振り返りシート

令和7年度 シラバス

第(1)学年(理)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週 3時間 年間 105時間

新しい時代におかたてじりつ(自律・自立)できる子どもの育成
～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことなどを通して[学習過程]，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力[資質・能力]を次のとおり育成することを目指す。

2. 使用教材と持ち物一覧

①教科書 ②ノート ③白プリント ④授業プリント	○持ち物・・・・・・①② ○学校で配布・・・・・・③④
-----------------------------------	------------------------------------

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
①学習課題を的確に把握し、実験・観察に積極的に取り組む。 ②疑問に思ったことや、分からないことを解決する努力する。 ③自分の良いところを伸ばし、苦手な分野にも挑戦する。	①授業で学習したことを、日常生活における事象・現象と結び付けられるよう、様々な科学的な現象に興味をもつ。 ②授業で学習したことを、その日のうちに復習する。	①テスト範囲の教科書、ノート、例題などの復習。提出は期限内にする。 ②プリント類の完成度を高める。間違ったところを理解できるまで取り組む。 ③予習よりも復習に重点を置き、習ったところを何回も繰り返し練習し、自信をつけること。

4. 年間計画

1学期		2学期		3学期	
4月	いろいろな生物とその共通点	9月	身の回りの物質	1月	光・音・力
5月		10月		2月	
6月		11月		3月	
7月	大地の成り立ちと変化	12月			

5. 評価について

	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	・自然事象に対する概念や原理・法則の基本的な理解 ・科学的探究についての基本的理解 ・探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能	定期試験、実力試験、小テスト、実験レポートの結果
思考・判断・表現	・自然事象の中で問題を見いだして見通しをもって課題や仮説を設定する力 ・計画を立て、観察・実験する力 ・得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探求力と科学的な根拠を基に表現する力 ・探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力	定期試験、実力試験、実験レポートの考察
主体的に学習に取り組む態度	・自然を敬い、自然事象に進んでかかわる態度 ・日常生活との関連、科学することの面白さや有用性に気付く力	授業、実験への取り組みかたや態度、提出物・ノートなどの取り組み姿勢

令和7年度 シラバス

第(1)学年(音楽)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週1.5時間 年間52.5時間

新しい時代におかたてじりつ(自律・自立)できる子どもの育成 ～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。
(1) その曲想と構造との関係、音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現ができるようにする。
(2) 音楽の表現を創意工夫することや、その音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
(3) 主体的・協同的に学習に取り組み、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2. 使用教材と持ち物一覧

①教科書(一般) ②教科書(器楽) ③ミュージックスタディ ④アルトリコーダー ⑤筆記用具	毎回の持ち物①②③⑤ 学校置いていいもの①②③ 音楽室で預かるもの④
---	--

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
・その音楽や音楽文化親しもう、楽しもう、みんなと協力して一生懸命・積極的に学習活動しようとする。 ・ワークを使いながら授業を進めることがあるので必ず教科書と照らしながら意欲を高めるようにする。	・授業で、学習した音楽を、楽しく口ずさんだ表現したり表現を持って聞いたりにして生活の中に活かしてみる。 ・様々な、ジャンル、国の音楽に親しんでみる。	・実技テストは、ぶっつけ本番ではなく、歌ったり、イメージ演奏練習などをして臨む。 ・授業で学習したことはよく復習する。

4. 年間計画

1学期		2学期		3学期	
4月	校歌(歌唱)楽典楽を形づくっている要素 春(鑑賞)リコーダー(ド～ソ)	9月	実技リコーダーテスト(オーラリー、喜びの歌)赤とんぼ(歌唱)	1月	箏曲「六段の調」実技リコーダーテスト
5月	主人は冷たい土の中に静かに眠れ(歌唱) リコーダー(オーラリー、喜びの歌)	10月	合唱コンクール曲 合唱コンクール曲 合唱コンクール曲	2月	辰そうそう(歌唱)上を向いて歩こう(歌唱) 君をのせて(歌唱)夢の世界を 指揮をしてみよう!
6月	実技歌唱テスト(校歌) 魔王(鑑賞)	11月	リコーダー(アメージンググレイス) 日本の民謡 アジア諸民族の音楽	3月	聖者の行進(リコーダー)リズムゲーム
7月	雅楽「平調越天楽」映画音楽 浜辺の歌(歌唱)	12月	ソーラン節(鑑賞) 生活や社会の音や音楽		

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	・曲想と音楽の構造などについての理解 ・音楽の多様性についての理解 ・創意工夫を生かした音楽表現の技能	・筆記テスト・ワークシート ・実技テスト・授業での見取り
思考・判断・表現	・音楽表現への思いやりや意図 ・音楽を自分なりに評価し、味わうこと	・筆記テスト・ワークシート ・実技テスト・授業での見取り
主体的に学習に取り組む態度	・音楽に親しみ楽しもうとする姿勢 ・主体的、協同的な姿勢	・筆記テスト・ワークシート ・実技テスト・授業での見取り

令和7年度 シラバス

第(1) 学年(美術)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週 1.5 時間 年間 52.5 時間

新しい時代におかかってじりつ(自律・自立)できる子どもの育成
～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
(2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
(3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2. 使用教材と持ち物一覧

①教科書・美術資料・色鉛筆(12色以上)・筆記用具(鉛筆・消しゴム・定規を含む)
②絵具セット・スケッチブック

持ち物…①のもののすべて
学校においてよいもの…①すべて
美術室保管…②絵具セット・スケッチブック
(スケッチブックは学校で配布)

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
美術の授業は作品制作、表現することが中心です。また、表現を下支えする技術もしっかりと取り組むことが大切です。また、鑑賞を通じて知ったいろいろな作品を見て「いいな」「面白いな」など、感動してください。	普段の生活の中で、「美しいな」、「不思議だな」、「面白いな」と思うことが大切です。 自然の中、町の中、部屋の中、自分の中、いろんなところに美しさや不思議さ、面白さが潜んでいます。アイデアを見つけてください。	教科書、資料集、プリントをもう一度見直してください。

4. 年間計画

1 学期		2 学期		3 学期	
4 月	オリエンテーション	9 月	鑑賞(デザイン) ○演習ー発想・構想の導き方	1 月	鑑賞(立体表現) ●作品制作ー粘土造形
5 月	○演習ー鉛筆技法 ○演習ー水彩技法 ●作品制作ー絵画表現	10 月	○演習ー色の仕組み ●作品制作ーレタリング・マークのデザイン	2 月	↓
6 月	↓	11 月	↓	3 月	↓
7 月	鑑賞	12 月	鑑賞		鑑賞

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	基礎的な表現方法の習得 基礎知識の理解	ワークシート 定期テスト
思考・判断・表現	発想力(イメージ展開の豊かさ) 応用力(意図に応じて創意工夫ができるか) 作品の完成度	アイデアスケッチ および作品
主体的に学習に取り組む態度	鑑賞課題への興味・関心 作品に取り組む粘り強さ 積極的な授業の取り組み	提出物 制作態度 授業態度

令和7年度 シラバス

第(1)学年(保健体育)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週3時間 年間105時間

新しい時代におかたてじりつ(自律・自立)できる子どもの育成
～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

【体育分野】
(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
(2)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自分の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意して自己の最善を尽くして運動する態度を養う。
【保健分野】
(1)個人生活における健康、安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
(2)健康についての自他の課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
(3)生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

2. 使用教材と持ち物一覧

①教科書「新しい保健体育」 ②実技書「中学体育実技」 ③体操服(水泳期間:水着・水泳帽・ゴーグル・タオル) ④体育館シューズ ⑤配布資料(ファイルまたは、ノート) ⑥タブレット(必要な場合)	☐ 持ち物:①②③④⑤⑥(授業ごとに連絡します。) ☐ 学校において良いもの:①②③④⑤
--	---

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
(1)積極的に取り組みましょう。 (2)自己の課題を見つけ、解決に向けて、思考・判断したことを表現しましょう。 (3)仲間と協力し、自己の役割を果たしましょう。 (4)健康や安全に留意し、自己の最善を尽くしましょう。	(1)汗をかくくらいの適度な運動をしよう。 (2)バランスの良い食事をとろう。 (3)十分な睡眠・休養時間をとろう。 (4)スポーツを観戦するなど運動やスポーツに触れる機会を持とう。 (5)授業で習ったことを復習し、教科書などを参考に知識技能を深めよう。	(1)教科書・実技書を理解が深まるまで読もう! (2)配布プリントや資料を見直そう! (3)授業で学んだポイントやコツを確認し、自分の言葉でわかりやすく表現できるようにしておこう!

4. 年間計画

1学期		2学期		3学期	
4月	体づくり運動 (新体力テスト関連)	9月	武道 (剣道) 陸上競技 (短距離走・リレー・ハードル走) 器械運動 (マット)	1月	保健2章6～10/体育理論1章3 陸上競技(長距離走) ネット型球技 (バレーボール)
5月		10月		2月	
6月		11月		3月	
7月	水泳 (クロール・平泳ぎ) 保健1章1～5/体育理論1章1	12月	保健2章1～5/体育理論1章2		

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	◆運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践できるようにするため、運動、体力の必要性を理解している。 ◆基本的な技能を身に付けている。 ◆運動やスポーツが多様であることを理解している。	◇定期テスト ◇実技テスト ◇学習の記録やノート等の記入状況 ◇授業中の言動
思考・判断・表現	◆自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考、判断している。 ◆自己や仲間の考えたことを他者に伝え、表現している。	◇定期テスト ◇実技テスト ◇学習の記録やノート等の記入状況 ◇授業中の言動
主体的に学習に取り組む態度	◆公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとしている。 ◆健康・安全に留意し、自己の最善を尽くし、取り組もうとしている。	◇定期テスト ◇実技テスト ◇学習の記録やノート等の記入状況 ◇授業中の言動

令和7年度 シラバス

第(1)学年(技術)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週 1 時間 年間 35 時間

新しい時代におかたてじりつ(自律・自立)できる子どもの育成
～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

ものづくりなどの体験的な学習を通して、技術の基本となる製図、木材工作、金属工作に関する知識・技能を習得する。

2. 使用教材と持ち物一覧

①教科書 ②ハンドノート ③授業プリント ④実習教材	○持ち物…①・② ○学校で配布…③・④
-------------------------------------	------------------------

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
①ポイントとなることをしっかりと おさえる。 ②ハンドノートにしっかりと取り組 む。 ③どうすればより完成度の高い作 品ができるか考えながら実習に 取り組む。	①教科書やハンドノートの内容 の理解を深める。 ②ものづくりに関心を持つ。	①教科書、ハンドノート、その 他プリントなど、授業で取り組 んだ内容を振り返る。

4. 年間計画

1 学期		2 学期		3 学期	
4 月	オリエンテーション	9 月	社会の発展と材料と加工の技術	1 月	木材工作の実習
5 月	材料と加工の技術の原理・法則と仕組み	10 月	木材工作の実習 ↓	2 月	情報の技術の原理・法則と仕組み ↓
6 月	材料と加工の技術による問題解決 ↓	11 月		3 月	
7 月		12 月			

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	・定期テスト ・実習での技能テストと実習作品 ・ワークシート
思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・定期テスト ・実習作品 ・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	・定期テスト ・実習、授業態度、実習作品 ・ワークシート

令和7年度 シラバス

第(1)学年(家庭)科

令和7年度 学習力重点目標

【授業時間数及び年間授業時間数】 週1時間 年間35時間

新しい時代にむかってじりつ(自律・自立)できる子どもの育成
～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

生活の営みにかかる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付ける。

(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらにかかる技能を身に付けるようにする。

(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して、課題を解決する力を養う。

(3) 自分と家族、家庭生活と地域の関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。

2. 使用教材と持ち物一覧

①教科書 ②ノート ③ハンドノート(ワーク)	☐ 持ち物:①②③ ☐ 学校において良いもの:①②③ ☐ 実習に必要なものは、適宜連絡します。
------------------------------	--

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
(1)生活の自立に必要な基礎的な知識を理解し、適切に実践できる力を身につけましょう。 (2)よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養いましょう。	・授業で習ったことで、家庭で実践できることは実践してみましょう。 ・授業中に終わらなかった課題は、宿題になります。家で調べて、考えて取り組んでいきましょう。	(1)教科書・実技書を理解が深まるまで読もう! (2)配布プリントや資料を見直そう! (3)授業で学んだ内容を確認し、自分の言葉でわかりやすく表現できるようにしよう!

4. 年間計画

1学期		2学期		3学期	
4月	ガイダンス(1)	9月	私たちの衣生活(9) 生活を豊かにする製作(5)	1月	調理と食文化(8)
5月	家族・家庭や地域とのかかわり(7)	10月		2月	
6月	健康と食生活(3)	11月		3月	
7月	何をどれだけ食べたら良いか(2)	12月			

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な知識を理解するとともに、適切に実践できる力を身につけている。	定期テスト 実技
思考・判断・表現	家族・家庭や地域における生活の中から課題を見つけ、改善策など工夫できることを表現している。	定期テスト ワークシート レポート課題
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造し、実践しようとしている。	ワークシート レポート課題

シラバス

第(1)学年(英語)科

令和7年度 学習力重点

【授業時間数及び年間授業時間数】 週 4時間 年間 140時間

新しい時代におかたてじりつ(自律・自立)できる子どもの育成
～誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

1. 到達目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。
(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2. 使用教材と持ち物一覧

①教科書 ②ノート (後日配布) ③新英語のワーク1 ④ファイル	毎回の持ち物 ① ② ③ ④ 家庭学習で使うもの すべて 必要に応じて持ってくるもの
---	--

3. 学習力アップのために

授業で	家庭で	テスト対策
①積極的に授業に参加しよう。 ②コミュニケーション活動をするときは、必ず英語で行いましょう。わからない時は、ジェスチャー等で反応しましょう。 ③グループ活動、ペア活動など積極的に行い、困っている仲間を助けましょう。 ④聞くとき、話すとき、書くとき、読むときのメリハリをつけましょう。	①忘れ物をしないように準備しましょう。 ②宿題、課題をしましょう。 ③ワーク等で復習を家庭で計画的、継続的に学習しましょう。 ④やりとりをして表現したかったが、わからなかった単語等を調べて、次の授業につなげましょう。 ⑤教科書をすらすら音読できるように練習しよう。	①ノート、ワークブック等提出物の確認しましょう。 ②プリント、ワークブック、ノート等を見直し、間違ったところを繰り返すなど、理解を深めましょう。 ③教科書をすらすら音読できるように練習しましょう。

4. 年間計画

1 学期		2 学期		3 学期	
4月	Unit0 Nice to Meet You Unit1 Hello, Everyone!	9月	Unit5 My brother in Hawaii Real Life English	1月	Unit9 Winter Vacation Real Life English
5月	Unit2 Our New Teacher Sounds and Letters	10月	Unit6 A Rakugo Performer from the U.K. Real Life English	2月	Unit10 This Year's Memories Learning Literature in English
6月	Unit3 Our School Unit4 Friends and Letters	11月	Unit7 An Online Tour of the U.K. Real Life English	3月	Stage Activity 3 My favorite Event This Year Let's Read Gon, the Fox
7月	Stage Activity 1 "All about Me" Poster 夏休み特集 Our Summer Vacations	12月	Unit8 Think Globally, Act Locally Stage Activity 2 My Hero		

5. 評価について

観点	評価の観点	主な評価資料
知識・技能	話すこと(やり取り、発表) 聞くこと	定期テスト 単元テスト パフォーマンステストなど
	書くこと	
	読むこと	
思考・判断・表現	話すこと(やり取り、発表) 聞くこと	定期テスト 単元テスト グループワーク、ワークシート パフォーマンステストなど
	書くこと	
	読むこと	
主体的に学習に取り組む姿勢	粘り強い取り組み	単元テスト、パフォーマンステスト グループワーク、振り返り、提出物など
	自己調整力	

R7年度の定期試験、学力診断テストの予定

3年	全国学力学習調査	4／16（水）、4／17（木）
3年	第1回学力診断テスト	5／7（金）
1年	IRTを活用した堺市学力学習調査	5／9（金）
2年	IRTを活用した堺市学力学習調査	6／5（木）
全学年	第1回定期テスト	6／23（月）、24（火）、25（水）
3年	チャレンジテスト	9／2（火）
3年	第2回学力診断テスト	9／16（火）
全学年	第2回定期テスト	9／25（木） 9／26（金）
3年	第3回学力診断テスト	11／7（金）
全学年	第3回定期テスト	11／26（水）、27（木）、28（金）
1・2年	チャレンジテスト	1／14（水）
3年	第4回学力診断テスト	1／14（水）
3年	卒業テスト（学年末試験）	1／26（月）、27（火）、28（水）
1・2年	第4回定期テスト	2／25（水）、26（木）、27（金）
3年	公立対応学力診断テスト	2／25（水）、26（木）

※4／18現在の予定です。変更が生じましたら、その都度お知らせいたします。